

9月の金融政策、政治・経済イベント

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

8月の金融市場では、北朝鮮を巡る地政学リスクの高まりを受け、中旬にかけて世界の株式市場は大きく下落し、為替市場では円高・米ドル安が進行しました。その後も、トランプ米大統領の人種差別問題を巡る発言を契機とした混乱から、投資家のリスク回避姿勢が強まる場面がみられました。下旬には、米税制改革の進展期待などから下げ幅を縮める場面もありましたが、米政策運営への不透明感や欧米の金融政策に対する思惑、また地政学リスクの再燃などが重石となり、各国の株式市場はまちまちの動きとなりました。

9月は、欧米の金融政策に注目が集まります。ECB(欧州中央銀行)は今年12月末まで、月600億ユーロのペースで国債などの資産購入を継続する方針ですが、市場では、7日に開催されるECB理事会において、来年1月以降の資産購入額の縮小を巡る議論が開始されるとの見方が強まっています。一方FRB(米連邦準備制度理事会)は、19~20日に開催されるFOMC(米連邦公開市場委員会)において、保有資産の縮小開始を決定するとみられていますが、追加利上げについては12月以降に持ち越されるとの見方が優勢です。

また米国では、9月にトランプ政権が財政面での正念場を迎えます。5日の議会再開後、月末までに政府債務の上限引き上げを実現できない場合には、米国債のデフォルトが懸念されるほか、同じく月内に2018会計年度(2017年10月~2018年9月)の予算案が可決されなければ、政府機関の閉鎖につながる可能性があります。しかしこれらの審議には難航が予想される上、トランプ大統領がメキシコとの国境の壁建設費用を含まない予算案への拒否権の行使を示唆したことなどから、米政策運営に対する不透明感が高まっています。さらに、こうした混乱から税制改革の審議が先送りされるとの見方も強まっており、月末に向けての政治動向が注目されます。そのほか、北朝鮮が9日の建国記念日に合わせて再び挑発行動に出る可能性もあることから、引き続き地政学リスクの金融市場への影響が懸念されます。

9月の注目される金融政策および政治・経済イベント

9月	予定	
1日(金)	■ 米国、8月のISM製造業景況指数、■ 米国、8月の雇用統計	
5日(火)	● オーストラリア、金融政策決定会合	● 金融政策関連 ■ 政治・経済関連
6日(水)	● 米国、地区連銀経済報告(ページブック)	
7日(木)	● ユーロ圏、ECB(欧州中央銀行)理事会	
8日(金)	■ 中国、8月の貿易統計	
13日(水)	● 英国、金融政策委員会(~14日)	
14日(木)	■ 中国、8月の鉱工業生産、小売売上高	
19日(火)	● 米国、FOMC(連邦公開市場委員会、~20日、20日にイエレンFRB議長の記者会見)	
20日(水)	● 日本、日銀金融政策決定会合(~21日)	
24日(日)	■ ドイツ、連邦議会選挙、■ フランス、上院議会選挙	
26日(火)	● 米国、イエレンFRB議長講演(クリーブランド)	
28日(木)	● ニュージーランド、金融政策決定会合	
30日(土)	■ 中国、9月の製造業PMI	
月内にも	■ 米国、政府債務の上限引き上げ、2018会計年度予算の成立?	

(信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。スケジュールは予告なしに変更される可能性があります。)
*上記は過去のものおよび予定であり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。